

## 5 改定の視点

前マスタープランに基づくこれまでの取組を踏まえつつ、本市の現況やまちづくり分野ごとの課題整理、市民アンケート、全国的な潮流等を勘案し、本マスタープラン改定に当たっての視点を次のように整理します。

### **視点① これまでのマスタープランの継承と更なる発展に向けた都市づくり**

ゆとりある緑豊かな住環境や良好な景観による高質な都市空間の形成などを目指す前マスタープランに基づく取組は、市民アンケートにおいて各分野とも肯定的な評価が得られており、これまでのまちづくりの理念や方向性については今後も継承していきます。

また、人にやさしい環境整備、地域の活性化、にぎわいの創出など、都市の魅力や機能を高め、更なるまちの発展を目指します。

### **視点② 長期的な人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能な都市づくり**

人口減少・少子高齢化の進展により、地域経済や生活機能の低下など、市民生活に影響が生じると考えられます。

中心市街地の再開発等による都市の再生、都市拠点機能の維持や充実、都市施設等の適切な管理や更新等により、都市の活力や生活利便性の更なる向上を図り、持続可能な都市づくりを進めます。

### **視点③ 安全・安心な都市づくり**

阪神・淡路大震災からの復旧・復興により都市基盤整備が進められてきましたが、近年では、都市施設の老朽化、発生が予測されている南海トラフ地震などの大規模災害への対応など、災害に強い都市づくりが必要です。

未然に被害を防ぐ「防災」や被害をできるだけ抑える「減災」などの視点に立って、必要な都市施設の整備の検討、施設の適切な管理や更新等を図ります。また、市民への防災に関する意識啓発や活動支援など、ハードとソフトの取組による安全・安心な都市づくりを進めます。

### **視点④ 市民参画と協働のまちづくり**

価値観やライフスタイルの多様化などによる市民ニーズの変化にきめ細かく対応するためには、行政だけではなく、市民や市民活動団体、事業者等が協働でまちづくりを進めていく必要があります。

市民参画と協働のまちづくりの推進に向けて、参画機会の創出、多様な手法による情報発信、活動の支援体制の整備など、行政、市民、市民活動団体、事業者などの各主体が活動しやすい環境づくりを進めます。